

6. その他教員養成の質の向上に係る取り組み

広島文化学園大学

教職指導の状況に関しては、各学部でのオリエンテーション時に説明されている。各学部とも履修に関するガイダンスは、各学部のシラバスに謳われている。

(1) 社会情報学部

教職課程委員会では年2回の教職ガイダンスを開き、全般的指導をしている。また、実習前面談を行い、万全な状態で実習に送り出している。

(2) 看護学部

看護学部では、3年次からコース制を実施し、5コースを設置している。うち、教職課程に係るコースは、養護教諭一種(資格取得)、高一種免(看護)の2コースである。

1年次前期 新入生オリエンテーション

1年次後期 コース選択

2年次前期 コースオリエンテーション

3年次前期 養護実習説明会、教育実習説明会

3年次後期 実習指導(履修状況点検を含む)

4年次前期 実習事前指導、実習巡回指導、実習事後指導、教員採用試験指導

4年次後期 教職実践演習(養護)、教職実践演習(高)B、看護教育論、リーダーシップ論

この間、チューターによるポートフォリオ(面接指導、目標達成に向けてカルテ作成)実施、担当委員会による特別指導を段階に応じて適宜実施する。

学内にFD(Faculty Development)委員会、教職課程委員会を設置し、授業内容及びその方法の改善を図り、教育の充実及び質の向上を目指している。

(3) 学芸学部

教職課程の履修については、学部の発行する『履修の手引き』に基づいて詳細に説明しており、取得免許の種類に応じた「学力に関する確認表」等を設けて認識の徹底を図っている。また、学部内に「教職サポート室」を設置し、教職を希望する学生に対してきめ細かな相談・情報提供を行い、「先生になる」夢の実現への支援を行っている。

(4) 人間健康学部

1年次前期から、教職希望学生を対象とした「学び磨き塾」を実施している。この塾は、広島県で長年にわたり教職歴を有する職員により、週1回のペースで実施され、入学時から教師として求められる資質能力について徹底指導を行っている。

広島文化学園短期大学

- (1) 課程の履修を通して、学生が教職への理解を深め、教職に就くための信念を持つこと、さらに専門的な知識・技能を幅広く習得し、教員として必要な資質能力を身につけることができるよう、全学的に教育内容や指導の充実を図っている。
- (2) 学生自身による教職課程における履修カルテを用いた自己点検・評価を定期的に行っている。
- (3) 学内では教職課程運営委員会及び教育課程委員会で、関連事項についての協議や連絡調整を行っている。
- (4) 学生による授業評価アンケートおよび授業担当者意見交換会を実施し、授業の改善、質の向上に努めている。
- (5) 教育実習に関連する連絡協議会においては、学科の担当教員が出席し、教育実習の調整や教職課程に関する教育内容や指導についての情報交換を行い、教育活動に役立っている。また教育委員会や実習校との連携をはかり、指導の充実に努めている。